

発表者 五十嵐 卓

テーマ 「地域に生まれ、やがて地域を担う子どもたち」

五十嵐卓と申します。よろしくお願ひいたします。

私は「地域に生まれ、やがて地域を担う子どもたち」をテーマに選びました。

中野区とはどんなまちでしょうか。インターネットの辞書のウィキペディアで次のように書かれています。「中野区は20歳、30歳代の若年層の居住が極めて多く、子どもが少ない。若者は出入りが多い。来る者は拒まず、去るものは追わずという雰囲気がある」と。これが中野区の特徴としてウィキペディアに書かれています。

では、どのくらい子どもが少ないのか。インターネットでいろいろ情報を探してみましたら、いい情報が出てきたので、次のグラフを見ていただきたいと思うのですが、15歳未満の年少人口のグラフを見てみましょう。中野区は年少人口割合が8.9%とここに書いてありますけれども、実際には去年、8.8%だったと思うのですよね。非常に、日本一、東京一子どもが少ないまちであると、区であるということで、23区で一番少ないということが分かって、私は非常にショックを覚えまして、大丈夫かなと思いました。

出生率も中野区は年によって違うのですが、0.8%から1.0%ぐらいで、これも新宿区と豊島区と争って最も少ないのです。日本一少ない出生率と子どもの数なのです。これは、非常に私、危機的に感じていまして。

では、高齢者について見てみましょう。高齢者は65歳以上の高齢率は20.2%、これは平均よりも少ないようで一見いいように見えるのですが、次の15歳から64歳までの現役世代、生産年齢人口率を見てみましょう。またもや中野区、新宿区、豊島区がまとまって高いです。この上に来ています。中野区は、このグラフでは71%もありますけれども、これは20歳、30歳代の若者が多いからだと思われまふ。この層は出入りが多くて、ただ、この層が10年後、20年後には高齢化してきます。これだけの多い人数が高齢化していくことを想像してみてください。

次のグラフは、一世帯当たりの人口ですが、やはり中野区、新宿区、豊島区が少ないです。若者の単身世代が多い、もしくはカップルでも子どもがないカップルとか、そういうことが考えられます。

ここから私の考えをまとめてみました。地域を担う子どもたち、年少人口が15歳未満は8.8%しかありません。東京23区で一番少ない、日本で一番少ない子どもの数です。このことに危機意識を持たなければならないと思っています。

生産年齢人口、15歳から64歳の71%が高齢化すると、今の子どもた

ちでは支えられません。財政的に非常に厳しくなります。子どもたちと共存・共栄をしなければいけません。今の子どもたちが増えることは望めなくても、減らないように施策を講じることが必要です。

子どもたちが中野で長く住み、働き、納税し、中野で買い物をし、食事をし、中野で結婚をし、子育てをし、中野で人生を全うすると。地域で大事に大切に、子どもたちを育む子育て先進区にならなければいけません。子育て先進区というのは、区長の4本の柱の1つでございます。

ハード、ソフト面を充実・充足させる必要があると思っています。心地よいインフラ、保育園、幼稚園、小学校、中学校、公園、図書館、福祉施設、文化施設、病院、住環境、これはもうほぼ整っていますけれども、その安心・安全な運営、警察、消防署、保健所、インフラ、便利な商店街、商店街も活性化しなければいけません。地元の商品を買って、食べていただくということです。

ソフトの面では、市民や教職員の指導、知・徳・体と生きる力を育てなければいけません。一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り開く子どもの力を育む、的確な教職員の確保、教職員の幸福度が子どもに影響しています。今の教職員もセブンイレブンといわれているのです。朝の7時から夜の11時まで働いています。こういうような、非常に深く関わっている教職員を少し軽減して、ゆとりを持って子どもたちに指導ができるようになっていただきたいと思っています。

地域のボランティア、NPO、NGO、企業、商店街、町内会、OB、OG、地域総出の子育て応援団の形成が必要になっています。要するに、地域コミュニティ、地域愛の形成、維持発展ということでございます。

具体的な提案を私のほうからさせていただきますと、挨拶運動です。区民とともに進めるまちづくり。通学路で朝夕、近所、住民が玄関先で「おはよう」「こんにちは」「さよなら」と声をかける、子どもたちの地域の連帯感を醸成する、子どもの心の孤立化を軽減する、地域での子どもの安心を守る、子どもに地域の一員を理解してもらって、様々な家庭環境を理解、支援すると。保護者や地域との連携、協働が必要になってまいります。

地域行事に子どもたちも参画してもらいます。安心して地域で暮らし続けるまちになるために、子どもたちが地域の商業産業を理解する、職場体験で働くことの大変さ、大事さを知って、親への感謝につながります。町内会行事、いろいろな行事に参加して、子どもたちも分担して参加して、地域貢献すると。そのことによって地元にも愛着を持ち、長く住みたいと思うようにすることが大事だと思っています。

以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。

区 長 分析を示していただき、ありがとうございました。年少人口が23区で最も少ない、20代、30代のボリュームゾーンがあるということなのですけれども、これはなぜだと思われませんか。

五十嵐 要するに、交通の便がいいので皆さん若い人が、比較的家賃も杉並区より安いということで、若い人が大いに住むのですけれども、マンションもワンルームとか単身者用が多いので、それを、ファミリー向けのマンションをたくさん拡充させて、もう少し子どもを増やしていくということ。今、少しずつ子どもは増えてたりしているのですけれども、子どもの学校を見ますと。ただ、もう少し増やしていかないといけないかなと。今後支えるために、それは必要だと思っています。

区 長 なるほど、ありがとうございました。挨拶運動や地域行事の参加など、こういうのをやれば地域に愛着を持つ子どもが増えてくるなと共感しました。それから、先生にゆとりを持ってもらったほうがいいというご意見でした。これがなかなか今、難しく、働き方改革ということで、いろいろICTを活用して改善をしているわけですけれども、そうした点ではいかがですか。

五十嵐 今、子どもの通知表もパソコンで先生方、打っていますよね。昔は手書きで一生懸命書いて、それが、時間がすごくかかっていたので、ある意味でそういう電子化によって大分省略化することがあると思いますし、先生の質も、クラスの生徒を減らせばいいというわけではなくて、先生の数と質は反比例するというデータがあるのですよね。そこら辺ももう少し的確な人材を適材適所で、いろいろなアシスト制度、サポーター、ボランティアも活用して、もう少し学校にゆとりがないといけないかなというふうに思っている。それは、電子化とかいろいろなことでの効率化につながってほしいなと思っています。

区 長 これまで中野で暮らしてこられて、中野の教育に何か感じられたことはありますか。

五十嵐 中野の教育ですか。子どもの学校とかを見ていると、先生は一生懸命やっている。このコロナの中でも先生方から連絡が来たり、いろいろな教材を、「これを見てください」と指導があって、非

常に細かい。コロナ禍の中でも先生方の親身な指導というのはあったかと思っています。ですから、先生方の評価は、私は非常に高く感じています。

区 長 ありがとうございます。